

2012年（平成24年）年度 事業実績報告

2013年5月15日

社 会 福 祉 法 人 緑 の 家
みどりの丘保育園

2012年4月1日、みどりの丘保育園を無事開園することができた。

❖2012年度の活動とまとめ

(1) 地域の子育て世代の要求に応える保育園をめざす。

① ～行事や取りくみの中で～

- ・こどもの日の会、七夕の会、ひな祭りの会等、季節や文化を知る会をもった。
- ・地域だよりを通して行事のお知らせをし、夕涼み会・焼き芋会や餅つき会等は子どもたちと商店街を練り歩きお誘いビラを配った。
- ・夕涼み会をきっかけに商店街の方々が子どもたちや職員に暖かい声をかけてくれ、つながりを感じた。
- ・焼き芋会・保育体験の方や近隣のディサービスのお年寄りも参加した。
- ・餅つき会・伊藤小学校の1年生～6年生で編成している西大井囃子に来て頂く。和太鼓の音に和み、地域交流の良さを実感した。
- ・パートナー保育登録者・・・27名→登録者の中で3名の方が25年度入園している。
- ・保育体験・・・・・・・・・・15件（2歳児の散歩・焼き芋会・餅つき会等）
保育体験の感想として園舎が明るくきれい・子ども達がのびのびと明るい・職員が親切で穏やかな印象を受けた、という声をいただく。

② ～おひろめ会の取組み～

5月20日（日） みどりの丘保育園にて

第一部 10時から11時 出席総数 75名

第二部 11時から12時 出席総数 75名

お祝い金 23名

2011年11月に実行委員会事務局をおき、代表呼びかけ人をつのる。その後保育園OBの方々に声をかけ、趣旨を理解して頂き、卒園児保護者を会長に迎え「みどりの丘保育園建設を応援する会」を立ち上げた。緑の家保育園、60周年の名簿を基に沢山の地域の方々や保育園の設置を願う方々の協力で「応援する会ニュース」の発行を始め、品物や絵本等の物品等寄付をして頂く。又職員は一丸となり当日の会成功に向け企画や催し等に奮闘した。この経験から

- ① 職員ひとり一人が力を結集させ一つの目標に向かって進む大切さと、達成感を味わう。
- ② 地域社会に福祉施設が果たす役割を知る。
- ③ 保護者OBの方々に支えられて「会」を迎えられた事、それを地域にかえして行く事を学ぶ。

～オープンデー～

- ・7月29日（日）施設見学を兼ねて空き牛乳パックを利用し椅子を作成 40名参加
緑の家保育園の保護者・OB・職員の方々の参加があった。

～ありがとうの会～

11月18日（日）

第一部	10時から10時半	在園児	21名	
第二部	11時から12時	応援する会	27名	
		その他	22名	計70名

- ・建設までの過程や子どもたちの姿をスライドショーで見たことで保護者の方々も保育園開設にあたり、多くの応援があつてできた保育園と感じてくれたように思う。こども達や職員によるお楽しみコーナーは保護者の方々にも喜んで頂けた。

(2) 法人の保育理念を日々の保育の中で伝え、職員集団をつくる。

① 保育内容

- ・職員会議では発達の読み合わせをしたり、わらべ歌を学び、主体的に会議に参加をした。
- ・「一人ひとりの思いを受けとめ寄り添う保育とは・・・」の課題をもって保育にあたるよう心掛け、疑問や問題点を出し合い確認しながら実践をしてきた。
- ・経営懇研修・私立保育園連盟、東社協・品川区等外にでて研修をしたり、共通の学習をし高め合った。又園内研修をする中で各専門職を生かした研修ができた。
- ・アレルギー児の誤食を防ぐため、指示書の内容を検討し、窓口を看護師に一本化した。看護師・栄養士・保育士の三者で確認しあう。緑の家保育園給食室と考え方や、すすめ方の交流を2回行った。誤食が今年度一回もなく、職員の意識の高さを感じた。
- ・職員の面談を6月と11月の年2回した。そこで出された日常の保育のあり方等要望、思い等を汲み取り保育や職場環境に生かした。

② 保護者との信頼関係

- ・利用者アンケートの中で保育や怪我などに対して「全部対応できないこともわかるが、対応が遅いと感じる時もあった」「その後の改善策を知らせて欲しかった」や「災害時に連絡する手段を検討して欲しい」という要望があった。殆どの保護者の方は、保育園に対して理解があつたが、より丁寧な対応が必要であつたと感じた。
- ・幼児組で起きた噛みつきやひっかきの怪我が続けてあり、傷を負わせた側の保護者にどう伝えているのか、園は傷の対応をどう考えているのか、というご意見を頂き懇談を持った。初年度に怪我に対する保育園の方針を出せなかった事で理解が得られず、結果として信頼関係を欠いた事は反省となった。

- ・色々な点で保護者に対して情報を発信する事の大切さを学ぶ。
- ・1年間の中で伝えたいことは沢山あったが、信頼関係はまだ結ぶところまでいかず保育の中で応えていくことの大切さを実感した。
- ・運動会やお買い物ごっこ、おたのしみ子ども会や親子遠足等行事を通して、保護者と共に子どもの成長を共感しあうことができた。

③ 環境・設備に関して

- ・既存の建物からの雨漏りがあり保育に支障があった。特に雨による整備に追われたが、園庭の一部をコンクリートで補修工事をしたことで、緩和された。
- ・下駄箱の中に吹き込む雨もポリカートの雨除けを設置したことで、保護者や子供たちが濡れずに通路を利用できるようになった。
- ・階段での事故が1件あり、対策として養生ゴムで階段にクッションをつけ角にカバーし改善した。

(資料) 子どもの状況

定員	定員	4月1日	9月1日	3月1日
0歳児 (もも組)	9名	8名	9名	9名
1歳児 (いちご組)	11名	11名	11名	11名
2歳児 (さくらんぼ組)	12名	12名	12名	12名
3歳児 (みかん組)	12名	6名	8名	8名
4歳児 (ぶどう組)	12名	3名	3名	4名
5歳児 (りんご組)	12名	0名	0名	0名
計	68名	40名	43名	44名
アレルギー除去・代替食		4名	5名	5名

2012年（平成24年）年度 事業実績報告

2013年5月15日

社 会 福 祉 法 人 緑 の 家
みどりの丘保育園

2012年4月1日、みどりの丘保育園を無事開園することができた。

❖2012年度の活動とまとめ

(1) 地域の子育て世代の要求に応える保育園をめざす。

① ～行事や取りくみの中で～

- ・こどもの日の会、七夕の会、ひな祭りの会等、季節や文化を知る会をもった。
- ・地域だよりを通して行事のお知らせをし、夕涼み会・焼き芋会や餅つき会等は子どもたちと商店街を練り歩きお誘いビラを配った。
- ・夕涼み会をきっかけに商店街の方々が子どもたちや職員に暖かい声をかけてくれ、つながりを感じた。
- ・焼き芋会・保育体験の方や近隣のディサービスのお年寄りも参加した。
- ・餅つき会・伊藤小学校の1年生～6年生で編成している西大井囃子に来て頂く。和太鼓の音に和み、地域交流の良さを実感した。
- ・パートナー保育登録者・・・27名→登録者の中で3名の方が25年度入園している。
- ・保育体験・・・・・・・・・・15件（2歳児の散歩・焼き芋会・餅つき会等）
保育体験の感想として園舎が明るくきれい・子ども達がのびのびと明るい・職員が親切で穏やかな印象を受けた、という声をいただく。

② ～おひろめ会の取組み～

5月20日（日） みどりの丘保育園にて

第一部 10時から11時 出席総数 75名

第二部 11時から12時 出席総数 75名

お祝い金 23名

2011年11月に実行委員会事務局をおき、代表呼びかけ人をつのる。その後保育園OBの方々に声をかけ、趣旨を理解して頂き、卒園児保護者を会長に迎え「みどりの丘保育園建設を応援する会」を立ち上げた。緑の家保育園、60周年の名簿を基に沢山の地域の方々や保育園の設置を願う方々の協力で「応援する会ニュース」の発行を始め、品物や絵本等の物品等寄付をして頂く。又職員は一丸となり当日の会成功に向け企画や催し等に奮闘した。この経験から

- ① 職員ひとり一人が力を結集させ一つの目標に向かって進む大切さと、達成感を味わう。
- ② 地域社会に福祉施設が果たす役割を知る。
- ③ 保護者OBの方々に支えられて「会」を迎えられた事、それを地域にかえして行く事を学ぶ。

～オープンデー～

- ・7月29日（日）施設見学を兼ねて空き牛乳パックを利用し椅子を作成 40名参加
緑の家保育園の保護者・OB・職員の方々の参加があった。

～ありがとうの会～

11月18日（日）

第一部	10時から10時半	在園児	21名	
第二部	11時から12時	応援する会	27名	
		その他	22名	計70名

- ・建設までの過程や子どもたちの姿をスライドショーで見たことで保護者の方々も保育園開設にあたり、多くの応援があつてできた保育園と感じてくれたように思う。こども達や職員によるお楽しみコーナーは保護者の方々にも喜んで頂けた。

(2) 法人の保育理念を日々の保育の中で伝え、職員集団をつくる。

① 保育内容

- ・職員会議では発達の読み合わせをしたり、わらべ歌を学び、主体的に会議に参加をした。
- ・「一人ひとりの思いを受けとめ寄り添う保育とは・・・」の課題をもって保育にあたるよう心掛け、疑問や問題点を出し合い確認しながら実践をしてきた。
- ・経営懇研修・私立保育園連盟、東社協・品川区等外にでて研修をしたり、共通の学習をし高め合った。又園内研修をする中で各専門職を生かした研修ができた。
- ・アレルギー児の誤食を防ぐため、指示書の内容を検討し、窓口を看護師に一本化した。看護師・栄養士・保育士の三者で確認しあう。緑の家保育園給食室と考え方や、すすめ方の交流を2回行った。誤食が今年度一回もなく、職員の意識の高さを感じた。
- ・職員の面談を6月と11月の年2回した。そこで出された日常の保育のあり方等要望、思い等を汲み取り保育や職場環境に生かした。

② 保護者との信頼関係

- ・利用者アンケートの中で保育や怪我などに対して「全部対応できないこともわかるが、対応が遅いと感じる時もあった」「その後の改善策を知らせて欲しかった」や「災害時に連絡する手段を検討して欲しい」という要望があった。殆どの保護者の方は、保育園に対して理解があつたが、より丁寧な対応が必要であつたと感じた。
- ・幼児組で起きた噛みつきやひっかきの怪我が続けてあり、傷を負わせた側の保護者にどう伝えているのか、園は傷の対応をどう考えているのか、というご意見を頂き懇談を持った。初年度に怪我に対する保育園の方針を出せなかった事で理解が得られず、結果として信頼関係を欠いた事は反省となった。

- ・色々な点で保護者に対して情報を発信する事の大切さを学ぶ。
- ・1年間の中で伝えたいことは沢山あったが、信頼関係はまだ結ぶところまでいかず保育の中で応えていくことの大切さを実感した。
- ・運動会やお買い物ごっこ、おたのしみ子ども会や親子遠足等行事を通して、保護者と共に子どもの成長を共感しあうことができた。

③ 環境・設備に関して

- ・既存の建物からの雨漏りがあり保育に支障があった。特に雨による整備に追われたが、園庭の一部をコンクリートで補修工事をしたことで、緩和された。
- ・下駄箱の中に吹き込む雨もポリカートの雨除けを設置したことで、保護者や子供たちが濡れずに通路を利用できるようになった。
- ・階段での事故が1件あり、対策として養生ゴムで階段にクッションをつけ角にカバーし改善した。

(資料) 子どもの状況

定員	定員	4月1日	9月1日	3月1日
0歳児 (もも組)	9名	8名	9名	9名
1歳児 (いちご組)	11名	11名	11名	11名
2歳児 (さくらんぼ組)	12名	12名	12名	12名
3歳児 (みかん組)	12名	6名	8名	8名
4歳児 (ぶどう組)	12名	3名	3名	4名
5歳児 (りんご組)	12名	0名	0名	0名
計	68名	40名	43名	44名
アレルギー除去・代替食		4名	5名	5名